

下新川海岸における波力低減型海域制御構造物の性能特性に関する研究

安野 浩一朗¹⁾, 森屋 陽一¹⁾, 山本 敦²⁾, 熊谷 隆宏¹⁾, 吉保 範明³⁾, 奥井 淳⁴⁾

Performance of Permeable Wave-Dissipating Structure with Effect of Decreasing Wave Force in Shimonikawa Coast

Kouichirou Anno¹⁾, Yoichi Moriya¹⁾, Atsushi Yamamoto²⁾, Takahiro Kumagai¹⁾, Noriaki Yoshiho³⁾ and Jyun Okui⁴⁾

■ 要 旨 ■

1986年以降、旧建設省によるMMZ(Marine Multi Zone)計画を契機に多くの海域制御構造物が開発され、実海域に適用されている。MMZ計画による構造物は、沿岸漂砂制御や静穏海域の確保といった国土保全機能に加え、沿岸域の水産や環境保全等に資するという観点から透過性の消波構造物であり、一定の水理性能を有することが要求されている。要求される水理性能は、対象海域のエネルギー平均波に対して反射率0.5以下、透過率0.6以下となっている。

本研究では、急勾配の二次元移動床実験により、S-VHS工法の堤体周辺の洗掘特性を確認するとともに、洗掘深毎の消波性能を確認した。また、供用開始後にスリット壁へ付着する生物や、設計時に磨耗しを付加した場合における消波性能の変化についても検討を行った。

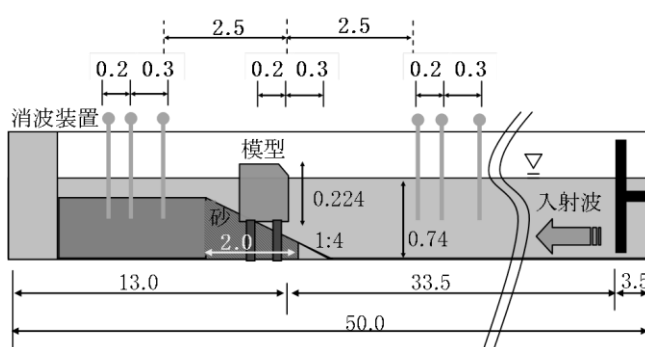


図-1 実験装置の概要

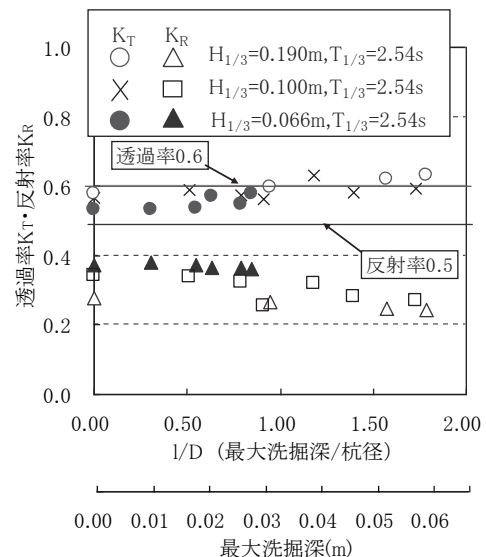


図-2 実験結果の一例

1) 技術研究所
2) 本社 土木設計部
3) 北陸支店
4) 国土交通省北陸地方整備局

*海洋開発論文集,第26巻(2010)土木学会,pp.987-992 掲載